

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400023		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームわくがわ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578-2		
自己評価作成日	令和6年10月30日	評価結果市町村受理日	令和7年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791400023-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームわくがわは、やんぼるの自然に囲まれ羽地内海がみおろせる高台に位置し穏やかな時を過ごせる環境にあります。
 入居者、地域、職員の3本柱で地域に溶け込み支え、支えられる関係を作り開かれたホームを目指しています。
 重度化・看取りに対しては、事業所に看護師、また村内の診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。終末期ケアに関しては要望に応じ、望む方に関しては当事業所での看取りを実地している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑に囲まれた集落の高台に位置し海も見渡せる自然豊かな環境にある。管理者や職員、利用者の多くは地域出身で、地域とのつながりが強く、地域活動にも積極的に参加している。地域住民からの差し入れや敷地内でのエイサー・演舞、除草ボランティアの訪問など、事業所は地域の一員として日常的に交流している。職員は運営に関する意見や要望を日頃から管理者に伝え、迅速に運営に反映する仕組みが整っている。社会保険労務士との顧問契約や、職員の勤務体制、勤務時間の調整にも臨機応変に対応し、働きやすい職場づくりに努めている。特に排泄に関しては、ほとんどの利用者が布下着を使用し、スクワットなどの運動を取り入れて排泄の自立支援に取り組んでいる。食事は3食事業所で手作りし、差し入れや家庭菜園の野菜など、その日の食材や利用者のリクエストに応じてメニューを決め、行事食など特別なメニューも取り入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度初めに理念に基づいた個人目標を設定し、取り組んでいる	開設時に法人代表と当時の管理者が中心となって掲げた事業所の理念は、現在も引き継がれている。職員は入職時のオリエンテーションで理念について説明を受け、「愛といきがい」のある職場づくりに努め、さらに「入居者の安全と満足」を実践に結びつけている。管理者は、ミーティングなどの職員の話し合いの場で、理念に基づいた考え方が意識できるように声かけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で収穫した野菜やもらいすぎた差し入れなどは公民館へ持っていき地域の人へ差し入れしている ・職員へお中元やお歳暮でもらいすぎた商品や unnecessaryなものを集めてもらい、社協のひとり品持ち寄り運動へ持っていき必要としている人たちへ分配してもらっている 	法人の職員がとうもろこし畑を所持しており、利用者や地域の保育園児を招いて収穫をしながら交流の場を提供している。管理者が地元の青年会OBメンバーで自主防災組織を立ち上げ、地域活動に貢献している。地域住民からは、野菜やケーキなどの差し入れがあり、事業所で収穫した野菜や食べきれない食料品を公民館に持って行き、フードバンクへの協力もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今帰仁村の健康福祉祭りに毎年参加し、事業所の展示ブースでは認知症についての説明などを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の状況を伝えるだけでなく、助言をもらったり、他の事業所の状況も聞けて参考になっている ・地域の行事や委員のイベントの紹介の場にもなっている 	2ヶ月に1回対面開催で、利用者とその家族、行政、知見者、自治会長と民生委員が参加している。議事録はファイリングし、事業所入口で自由に閲覧できるようにしている。事業所職員から「センサー使用は身体拘束にあたるのか」との疑問に対し、行政から「行動制限を目的としていなければ当てはまらないのでは」との助言を受けるなど、会議内容をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・村の担当者は運営推進会議にも参加してもらっている ・村の担当者とは今帰仁村のケアマネ連絡会やなきじん法人ネットワーク、高齢者福祉計画策定委員会の委員として一緒に活動しており、月に数回は話す機会があり、情報を共有している 	行政とは、運営推進会議への出席時や、メール、FAXを通じて情報の交換を行っている。また、管理者は高齢者福祉計画策定委員会の委員や、毎年村が主催する健康福祉祭り実行委員会にも協力している。祭りには利用者の手作りの展示や、認知症チェックシートの提供などを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は委員会を2か月に1回開催し、今年度は8月に職員研修も行っている	身体拘束等の適正化のためのマニュアルと指針が整備され、委員会は運営推進会議を活用し、2ヶ月ごとに開催されている。職員は委員会の議事録を確認し、定期的に研修を実施、身体拘束ゼロへの手引きや指針について読み合わせを行っている。職員は言葉による抑制や身体拘束に該当する行為を確認し、疑問がある場合には委員会で確認して助言を受けている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入社時の研修でも説明し、職員研修も今年度は11月開催予定 ・職員に虐待予防チェックノートを配布し、自分のケアを振り返ってもらっている	虐待防止の指針が整備され、対策を検討する委員会が年1回開催されている。職員は年2回の研修を受け、虐待予防チェックシートを記入して、不適切なケアの防止について意識を高めている。職員の疲労やストレスの相談には管理者が面談時に確認し、介護職員の業務負担軽減のため、清掃専属職員の採用を進めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・虐待の防止とともに職員研修を今年度は11月開催予定 ・管理者は社協職員より制度について学び、職員研修にて学んだことを説明し、話し合う予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居契約前に本人、家族にホームでの様子を説明し、見学に来れる方には来てもらって様子、雰囲気を見てもらいながら説明を行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・月の利用料の支払いはなるべく利用者の顔を見て面会しながらできるように場所や感染対策をしており、請求書も村内は管理者が1件1件配り、家族と直接会える機会を増やし、会えた時は施設での様子などを伝えたり要望などを聞いている	利用者からの要望は日々の中で聞き取り、水分補給をあまり好まない利用者には、飲みやすい飲料を提供する等して対応している。家族からは管理者が毎月請求書を家族の自宅に配布する際や、面会時や電話等で意見を聞く機会を設けている。職員の利用者への声かけが臆に感じないように改善したり、車いすの利用者が家族と外出する際には事業所の福祉車両を貸出している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 意見のある職員からはその都度意見を聞いており、ミーティングで職員みんなに提案できる場も設けている 管理者との個人面談も行っており、全体で言いにくい意見なども聞けるようにしている 	管理者と職員は毎日の申し送りや月1回のミーティングで職員からの意見を聞いている。調理器具の購入や家具の修理は普段から、蓄電池の購入などは代表決済で進めている。職員の家庭環境や希望に合わせて勤務時間を調整し、研修がある際には勤務扱いとし、研修費は法人が負担して支援している。職員が介護業務に集中できるように、清掃専属職員の求人も行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 労働時間・仕事内容の要望は個々により違うため、要望に沿えるようにしている。またそれぞれの得意分野が活かせるように勤務内容に配慮し就業環境の整備を行っている 社会労務士と顧問契約を結び、会社、職員が疑問に思ったことなど、すぐに相談し解決できるようになった 	職員は定期的な健康診断を受けており、年5日以上の有給休暇も取得できている。法人は社会保険労務士と顧問契約を結んでおり、職員は自由に社会保険労務士と相談できる体制になっている。ハラスメント防止については、指針やマニュアル、相談窓口などの体制を整備し、職員への周知を目的とした研修を実施している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 新人職員へはベテラン職員をつけ対応の仕方や入居者の特徴などを習い業務に活かせるようにしている 社外研修は研修費用やその日の日当を支払ったりして受けやすい環境を作っている 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 隣接するグループホームとの交流し、研修や勉強会を通し同業者の刺激をもらい業務に活かせるようにしている 今帰仁村の連絡会にも加入しネットワーク作り、サービスの質の向上を目指している 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時現在の状況を聞きながら、自宅や入院生活で困っていること、不安なこと、希望等出身やこれまでの生い立ちを聞きながら表出しやすい雰囲気を作り安心を確保する関係づくりに努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時、本人のこれまでの生活の状況、どのような経緯で入所を希望するか、入所に関して本人の意向を確認したか、困っている事、不安なこと、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時、どのようなことを望んでいるか聞き取り、他施設の紹介なども含めこれからの生活の場を協力し対応できるように勤めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護しながらや雑談の中から、人生の先輩として尊敬し野菜の手入れなどの仕方を学んだり、歌や踊り、ゲームを一緒にすることで関係性を築き暮らす同士の関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の祖父母、親、兄弟としての役割を理解し、家族の絆を大切にしその役割を果たせるよう家族とともに本人を支えていく関係性を築いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの交友関係を把握し、隣接のグループホームと交流できるように努めている。地域での催し物がある場合参加できるよう努めている	入所前の自宅近くの人が現在でも面会に訪れたり、住んでいた場所周辺へのドライブを支援している。また、幼馴染の利用者が先に入居していたことを知り、もう一人の利用者が強く希望して当事業所への入居に至った経緯もある。利用者は地元の豊年祭や敬老会に参加し、これまでの馴染みの人との関係を継続できるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、話が弾み関係性のいい入居者が近くなるように席替えを考慮している。他入居者と関わり一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し入院している場合等その後の経過を確認している。永眠後は必要に応じ家族の近況を確認している。永眠後の家族から知り合いの方の入居相談などあり相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や普段の生活の中から本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にアセスメントを実施し、利用開始時には本人と家族、担当職員で本人の姿絵付き「私の姿と気持ちシート」を作成し活用している。日常的には利用者の行動や会話、家族からの情報などをもとに、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、いくつかの選択肢を準備して声かけをし、家族が作成した絵カードを活用して支援する利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、普段の生活、家族面会時等から大まかな生活歴、暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や作業療法、全体活動から心身状態、を把握しその方にあった作業療法、ADLに応じた支援に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、介護度更新時、状態変化時、退院後等良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。介護者は受け持ち性を取りセンター方式のCシートを活用し本人、家族、思いを把握するように努めている	介護計画は、長期目標と短期目標がともにほぼ1年となっており、居室ごとの担当職員が毎月のモニタリングを実施している。計画作成担当者は看護師を兼務し、介護計画の更新や状態変化時の見直しを行っている。担当者会議には、利用者や家族、管理者、介護職員のほか、主治医も参加し、利用者一人ひとりに合った活動などを計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動や、ADLの状態、介助の方法や結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物希望時時間を調整し買い物に出かけたり、必要なものを代理で購入できるよう支援に努めている。しきりに帰りたいと訴える場合、家族へ連絡してできる範囲で自宅へ行けるよう支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の方は福祉事務所と連携し金銭管理を委託し安心して暮らせるよう努めている。家族と折り合いの悪い方は、家族への働きかけや、区長や民生員と協力し今後の事を心配する事無く過ごせるよう努めている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受け安心して生活できるよう努めている。訪問診療医の専門以外(整形外科・形成外科・精神科・皮膚科・眼科等)は専門医受診後訪問診療医に紹介してもらい必要に応じ専門医受診を受ける様に支援している	利用者は入居前から通院していた地元の診療所のかかりつけ医を継続し、入居後、利用者の状態に応じて、利用者と家族の意向確認の元、訪問診療に切り替えている。必要に応じてかかりつけ医と相談しながら専門医を受診するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握し、普段と変化がある場合(発熱、サーチレーション低下、血圧の変化、転倒、便秘、下痢、不穏、何か気になる)、看護師に報告し対応できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、ホームでの様子を情報提供し本人の日常やADLを把握出来る様に努めている。必要なものをそろえ安心して暮らしている。地域連携室と定期的に連絡を取り早めに退院出来るよう努めている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合の対応を確認。重度化した場合の本人の意思を確認したことがあるか確認。事業所でできること、訪問医と連携し看取りをしている事を説明。重度化した場合、再度ホームで出来ることを説明し本人に取って最善の方法をチームで支援出来るよう努めている	重度化や終末期の対応についての説明を契約時に行い、同意をもらっている。診療所の医師との連絡手段としてグループLINEを使用し、利用者の現状報告や相談ができるように工夫している。また、訪問診療を行い利用者の病状にいち早く対応が行えるように備えている。病状が気になる方については、医師から連絡をくれる等、安心した体制作りができている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、応急処置や初期対応の方法を申し送り時に行い実践力を身に付けている	救急対応に備え、診療所の医師から応急処置や初期対応の指導、ミーティング時に職員間にて話し合う等して急変時に備えている。また、緊急時に対応できるように電話器には診療所への短縮ボタンを設定している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・自動火災通報装置、スプリンクラーを設置している。 ・年2回、避難訓練を実施している。 ・区長さんや近隣の住民の方にも、火災通報装置に登録してもらい協力していただき連携を取っている。	避難訓練実施、BCPの策定や委員会と指針の整備等が記録から確認できた。火災報知器の点検の記録、スプリンクラー設置があり、緊急時の設備が備えられている。また、災害時における備蓄の食料や水が3日間分準備されている。避難訓練時には区長や地域の方が一緒に参加し、協力体制が築けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・排泄や入浴の場面で、他の入居者に個人の状態が伝わる事がないように留意し、場面ごとに誇りやプライバシーは損なわないような言葉かけ対応に努めている。	人格尊重とプライバシーについてミーティング時に話し合い、利用者への対応に気を付けている。排泄、入浴介助時は声かけやドアやカーテンを閉める等して利用者への配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、発する言葉や行動から本人の思いや希望を受け止め自己決定出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴その日の状態を観察、本人が嫌がる時など入浴日をずらしたりし対応している。大まかな日課はあるが入居者の時間に合わせ散歩したり、全体活動自由参加にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面時鏡が見られるようにし、整髪を自分で出来る様にしている。普段と変わった服を来ている場合は、来ている服の評価をしおしゃれに興味を持てるように努めている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか問いながらメニューを決めたり、野菜繙い、野菜の収穫を行えるよう支援している。食後は食器のかたづけ出来るよう支援している	利用者と一緒に育てた野菜を食事の材料に使用し収穫も一緒に楽しみながら職員が調理を行っている。利用者の希望をとり、さしみ、中味汁、エビフライを提供する等食事を楽しむことができるように支援している。コロナ感染症が流行した際は感染予防から各居室での食事をする等の工夫をすることがあった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量に合わせ配膳。水分少ない入居者は、汁を多めにしたり、甘い飲み物を提供し工夫している。嚥下の悪い入居者は、トロミをつけたり、刻み食、ミキサー食にし、1日のカロリーを取れるよう工夫している。月に1回体重測定し体重の増減を把握し食事量調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力で出来る方は自力で口腔ケアしてもらい、仕上げを介助している。できない方は介助で行っている。調子悪くうがいでできない場合やむせこむ場合は口腔清拭を行っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツにパット使用しトイレでの排泄を促している。9人中一人は完全片麻痺の為オムツ対応。ふき取り自分でできる方は自分で拭き取ってもらい、拭き残しがないか確認し介助を行っている。時々オムツはずしのある入居者はオムツはずしのパターンを観察し対応している	日々の機能訓練にて、屈伸運動を続けて行うことで失禁や尿漏れが少なくなった。また、しっかりとフィットするメーカーの布パンツを各利用者使用し、パット装着することで日中は1名以外の利用者がトイレでの排泄が行えている。排泄の自立支援に向けた対応を工夫して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜、牛乳、ヨーグルトを提供、朝、昼と体操をし運動を促している。それでも便秘の方は定期的に緩下剤や座薬挿肛し、排便を促している		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を計画。入りたくない場合は日をずらし支援している。出来ることはやってもらえないところを支援している	基本は午前中の週2回入浴対応を行い、失禁等があった場合はその都度対応をしている。入浴拒否の方には対応職員を変えたり、時間を変更する等の工夫をされている。また、強い拒否のあった方には昔話をしながら対応すると心良く入浴を行っていた。湯船に浸かりたいとの希望には簡易式の湯船を使用し、利用者の希望に沿った対応を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	90歳以上の入居者が6人おり食後臥床して過ごす方が増えている。本人のペースに合わせ休息出来る様になっている。全体活動の時間を調整し体操を出来だけ参加できるようにしている。夜間必要に応じ眠剤を服用してもらい安眠できるように支援している		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース記録に綴り全員が飲んでる薬の効用や副作用理解するようにしている。新しい薬を服用する場合は、全員に伝わるように申し送り簿で伝え効果、副作用を観察できるようにしている。	服薬マニュアルの確認ができ、薬の説明書を全職員が確認できるようにケース記録に綴り、把握しやすいよう工夫されている。夜勤者の職員が当日の分と明日の薬がセットされていることを確認し、薬の飲み忘れや誤薬等を防ぐように名前と薬が一致しているかを読み上げてから服薬確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ、出来ることできないことを把握しその方に合った作業療法を提供し過ごしてもらっている。自宅にいるとき家庭菜園をしていた入居者は草取りなどできるように支援している。パン、コーラー好きな方はパン、コーラーを購入してもらい提供している。面会時好きな嗜好品を家族に持参してもらい一緒に食べてもらっている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日、日に当たりたいという方は外に出てもらい日にあったり外の空気に触れてもらっている。買い物をお願いする方は時間が許すなら一緒に買い物に出かけている。自宅に行ってみたいと言う方は家族に連絡し、外出してもらっている。ドライブで入居者の自宅巡りをする事で地域の方に会う事ができた	天気の良い日は外気浴を行い気分転換を図っている。外食をしたい方や洋服を購入したい方は職員が個別に対応している。また、A&Wへ行きたいという希望にもできる限り時間調整を行い、対応している。つつじ祭りへのドライブには、事業所でカレーを作り、会場でみんなで食べる等の工夫を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護者に買い物をお願いする方が一人おり買い物支援を行っている。一月3千円の小遣いの中からコーラーやパンの依頼がある。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい場合は電話の引継ぎをし話してもらっている。ほとんどの入居者が自分の名前を書くことがやっと、五十音や簡単な計算などしてもらい名前を書く練習を行っている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・散歩後、みんなで収穫した野菜をつくろったり、みんなで歌を歌ったりできるようにベンチと机を設置。 ・屋内にはリビング以外で読書できるように机とイスを設置したり、利用者が制作したその季節のちぎり絵などを飾って季節を感じつつリラックスできるように工夫している	玄関前にはベンチが設置され、散歩や外気浴後に交流ができるように工夫がされている。家族からの差し入れで共有空間にお花を飾る等、季節を感じさせる飾り付けをしている。また、好きな音楽やテレビを流し、利用者がくつろぎやすいように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・仲の良い利用者は隣同士になる様に席を配置している。一人で集中して読書ができるように読書専用のイスと机を設置している。 ・外での作業が好きな利用者が休めるようにベンチと机を設置している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にはこれまでに使い慣れた愛着のある者を使用していただき、利用者が居心地よく安心して生活できるように支援している。 ・テレビなども希望する方には、家族と相談し設置できるように支援している。	居室には、家族と思い出の写真やラジオ、使い慣れた寝具の持ち込みをされている。中には仏壇の持ち込みもあり、自宅にいたような雰囲気作りと居心地良く過ごせるように配慮をしている。衣類はタンスに綺麗に整理され、利用者が使いやすいようにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者が自力で出来ることは見守り、安全に考慮し対応している。ADLが低下し、今までできていたことができなくなってきた利用者は職員皆で情報を共有し対応している。 ・各部屋には表札などわかりやすいようにしている。		